

環境教育指導者 紹介

（水環境科学・バイオマス利用）
環境保全

No.1 しの はら りょう た
篠 原 亮 太

昭和22年生まれ 熊本市在住
現在 熊本県環境センター館長
宇城市環境審議会会長
水俣市環境審議会会長

〈講演会・学習会テーマ例〉
「熊本の水」「地球環境問題」
「廃棄物の現状」
「安全でおいしい野菜」



主な研究課題は、水環境における化学物質の挙動と水の高度処理である。また、地球環境問題をはじめ、現代の抱える環境問題を環境保全の視点から解析する教育研究を行っている。社会活動の一環として、新エネルギー、バイオマス利活用を中心に地域での環境保全活動の支援も進めている。

環境保全
（水環境保全）

No.2 こ じま とおる
小 島 徹

昭和33年生まれ 熊本市在住
現在 (公財)肥後の水とみどりの愛護基金啓発事業部長
くまもと「水」検定1級、くまもと水守（呼称：水源涵養水守）

〈講演会・学習会テーマ例〉
「阿蘇が生んだ地下水のメカニズム」
「水循環と私たちの生活」



熊本地域をはじめ、県内各地の水供給のメカニズムを研究している。
水源かん養林の保全育成事業、水田湛水事業や湧水地を守るため水質調査に取り組んでいる。環境関連情報のSNSによる発信に注力し、教育旅行の講師を務めている。

環境保全
（水環境保全・水環境工学）

No.3 かね こ よし お
金 子 好 雄

昭和26年生まれ 熊本市在住
現在 元東海大学産業工学部環境保全学科 准教授
熊本学園大学 非常勤講師
江津湖研究会副会長
(一社)地域共生・資源活用協会理事
NPO法人白川流域リバーネットワーク代表理事
CONEトレーナー

〈講演会・学習会テーマ例〉
「川の水環境調査」
「多自然川づくりのすすめ」
「豊かな生態系としての水環境」



川、湖沼、地下水といった水環境の保全・復元に関する調査研究や、生活排水、産業排水などの生物学的処理に関する調査研究を行っている。

平成5年に第14回熊日出版文化賞受賞、平成15年に(社)日本水環境学会水環境文化賞受賞、平成17年に日本河川協会河川功労者賞受賞。

著書に「熊本発地球環境読本(共著)」、「くまもと水防人(さきもり)物語(共著)」等がある。

No.4 かわ ごと やす のり
川 越 保 徳

＜講演会・学習会テーマ例＞
「水のおいしさについて」
「熊本の地下水水質について」
「微生物を利用する水処理について」

昭和61年 宇部興産(株)宇部研究所研究員
平成3年 大阪市立環境科学研究所研究員
平成15年 熊本大学工学部助教授
平成23年 熊本大学大学院教授
現在 熊本大学 くもと水循環・減災研究教育センター 教授
日本水環境学会 九州・沖縄支部長
日本水処理生物学会 編集委員、日本生物工学会会員、土木学会会員

大学では衛生工学を専攻し、微生物による難分解性物質の分解に関する研究で博士学位を取得。民間企業にてSODという酵素を医薬品にすべく基礎研究に従事し、前職場の大阪市立環境科学研究所では、海も川も、きれいも汚いも関係なく、色んな“水”に含まれる微量有害物質の分析と除去の研究に関わった。熊大では、熊本が誇る地下水のおいしさの研究に始まり、水質の保全に関する研究に力を注いでいる。



No.5 た なか のぶ ひろ
田 中 伸 廣

＜講演会・学習会テーマ例＞
「熊本の地下水・湧水巡り」
「阿蘇の恵み くもとの地下水」

昭和23年生まれ 熊本市在住
平成25年 熊本県退職
現在 熊本県環境審議会水保全部会特別委員
元熊本県地下水保全アドバイザー
阿蘇ジオパーク専門家委員会委員
阿蘇火山博物館学術専門委員

熊本県庁に入庁後、長年に渡り地下水の開発と保全の調査、研究、水質汚濁防止法に基づく公害防止、河川や海域の水環境監視等の環境・公害行政に従事。専門の地質の視点から、熊本の地下水をやさしく解説。

著書に、一の宮町史「阿蘇山と水」がある。



No.6 むら かみ しげ と
村 上 茂 人

＜講演会・学習会テーマ例＞
「熊本地震とわき水」
「熊本のわき水」

現在 環境カウンセラー
環境教育インストラクター

学校教育の中で「わき水を未来に残したい」という思いから、熊本県の水環境を調べ始める。現在、熊本市や益城町を中心に水質調査やわき水の歴史を調べたり、熊本地震とわき水の関係を調べたりしている。



No.7 なか た はる ひこ
中 田 晴 彦

＜講演会・学習会テーマ例＞
「熊本の地下水保全と人間活動」
「江津湖とマイクロプラスチック」
「考古試料と化学分析」

平成10年 熊本大学理学部 助手
平成19年 熊本大学大学院自然科学研究科 准教授
現在 熊本大学大学院先端科学研究部 准教授

環境試料に含まれる有害化学物質やマイクロプラスチックの分析法や環境動態の把握に関する調査研究を行っている。また、微量分析技術を考古試料に応用した歴史と化学融合型の研究も展開している。



No.8 こが 賀 実

<講演会・学習会テーマ例>
「環境を測る」
「化学物質の毒性評価」

昭和47年～昭和54年 北九州市環境衛生研究所
昭和54年～平成9年 産業医科大学講師、助教授、
共同利用研究センター副センター長
昭和62年～平成元年 米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校 博士研究員
平成9年～平成26年 熊本県立大学
(助教授、教授、学生部長、副学長、学長)
平成13年～平成14年 英国プリマス大学 客員教授
現在 水俣環境アカデミア所長 (平成26年～)
熊本県立大学名誉教授

科学技術の進展に伴い多種類の化学物質が新たに製造され、我々の日々の生活の中で広く使われ環境中に拡散している。その中には環境中に長期間残留し、生態系に影響を及ぼす化学物質も知られている。環境中微量化学物質の分析法、環境動態、毒性評価方法などについて解説する。



No.9 は せ よし たか
長 谷 義 隆

<講演会・学習会テーマ例>
「熊本の大地の成り立ちを知る」
「自然環境の変遷を探る」

昭和16年生まれ 熊本市在住
元熊本大学大学院自然科学研究科教授
現在 天草市立御所浦白亜紀資料館名誉館長

地球科学、特に層序学、植物化石に基づく古環境解析が専門。九州の中部、南部の新生代後期の地史を整理。九州に産する植物化石を基にして古植生、古気候を把握し環境変遷を明らかにする。著書に「日本の地質9、九州地方」(分担)、「海にうかぶ博物館 天草ジオパーク」(編著)など。



No.10 きた むら なお し
北 村 直 司

<講演会・学習会テーマ例>
「サメの歯化石」「ゾウ化石」
「ニホンオオカミとツキノワグマ」
「フズリナ」「アンモナイト」

昭和29年生まれ 熊本市在住
平成26年 熊本博物館学芸員(地質)退職
現在 日本古生物学会会員
サメの歯化石研究会会員
博士(理学)

サメの歯化石を専門的に研究。その他、有明海から揚げられたゾウ化石、洞窟から発見されたニホンオオカミやツキノワグマ、フズリナ化石そして、アンモナイトについても調査を進めた。観察会や講座も数多く経験。



No.11 ちょう だい しゅう
張 代 洲

<講演会・学習会テーマ例>
「熊本の大気環境」
「東アジアの大気汚染」
「黄砂とその環境への働き」

昭和40年生まれ 宇土市在住
平成8年 中国北京大学研究助手
平成11年 熊本県立大学専任講師
現在 熊本県立大学教授
熊本大学非常勤講師

東アジア地域の大気環境問題を取り上げ、気象学や大気汚染及び気候変動などの立場から大気環境に関する研究教育を行っている。主な研究課題は、大気汚染物質の変質過程とその環境影響である。平成17年日本エアロゾル学会奨励賞受賞。



No.12 みや はら みちこ
宮 原 美智子

昭和33年生まれ 熊本市在住
昭和56年 熊本県公立学校教員(昭和61年まで)
平成10年 財団法人省エネルギーセンター主催第一回「わが家の省エネ実践コンクール」
優秀賞受賞
現在 NPO法人九州環境サポートセンター 理事
一般財団法人くもも未来創造基金 理事
公益財団法人 熊本上下水道サービス公社 理事
公益財団法人 肥後の水と緑の愛護基金 評議員
クライメート・リアリティ・リーダー
「熊本×モンゴルプロジェクト」担当 暮らし手仕事まあむ代表

財団法人全国友の会において、生活全般にわたって適量の生活(エコライフ)省エネを実践。その後熊本県(熊本市)地球温暖化防止活動推進センター・省エネルギーセンターでの県内及び九州の小中学校高校・一般市民・企業・行政関係者への「家庭の省エネアドバイス」、「体験型出前講座・環境教育」、「省エネ調理」「地球温暖化と暮らし」に関する講演などを行う。現在、「熊本×モンゴルプロジェクト」モンゴル植林活動を通して、環境問題と自分たちの暮らしを考える活動を行う。

〈講演会・学習会テーマ例〉
「地球温暖化と私たちの暮らし」
「地球温暖化と異常気象」「地球のもしもに備える」
「世界・日本の地球温暖化の現状と暮らし」
「地球と子どもたちの未来のためにエシカルなくらしをしよう」
「熊本とモンゴルから地球の未来を考える」



No.13 とり い しゅう いち
鳥 居 修 一

平成5年 鹿児島大学工学部助教授
平成15年 熊本大学工学部教授
現在 熊本大学大学院先端科学部教授
National Institute of Technology Karnataka (India) 客員教授
ALVA's Institute of Engineering and Technology (India) 客員教授
REVA University (India) 客員教授
Vel Tech Institute (India) 非常勤教授
Southern Taiwan University of Science and Technology (Taiwan) 客員教授
一般社団法人九州脱炭素都市創出ユニット 副代表理事
所属団体 日本機械学会、日本伝熱学会、可視化情報学会、化学工学会、空調調和衛生工学会、日本エネルギー学会

大学では核エネルギーを専攻し、核燃料棒周りの熱流動特性に関する研究で博士学位を取得。米国科学財団の支援でミシガン大学で連続精錬システムに関する基礎研究に従事し、鹿児島大学工学部機械工学科では、各種回転機器や燃料機器の熱と流動に関して数値解析で解明する研究に関わった。熊本大学では、畜産系廃棄物等からの再生可能エネルギー創出のための機器の開発及びその熱流動特性に関する研究に従事している。

〈講演会・学習会テーマ例〉
「有機系廃棄物を含むバイオマスを用いた再生可能性エネルギー創出」
「燃焼灰の有効利用について(人工漁礁への応用。路盤材への活用)」



No.14 わた なべ てる き
渡 邊 輝 樹

昭和39年生まれ 熊本市在住
現在 (元) みなまたエコタウン協議会会長
(元) アクトビーリサイクリング(株)専務取締役
環境管理士
アスベスト診断士

家電リサイクル事業を中心として、リサイクルや資源循環に20年以上携わっており、中国での勤務も経験している。ビジネス等に関連した実例を紹介しながら、環境リサイクルの「いま」を伝えたい。

〈講演会・学習会テーマ例〉
「家電リサイクル、小型家電リサイクルの現状」
「金属・プラスチックのリサイクルのしくみ」
「みなまたの環境への取り組み」



No.15 たか だ あつ こ
高 田 敦 子

昭和32年生まれ 熊本市在住
手織り・裂き織り教室 織好SUN主宰
一般財団法人 生涯学習開発財団・認定
日本染織協会 公認インストラクター
NHK熊本文化センター講師

現代の便利で快適な暮らしが不自然であることを自覚し、少ないもので豊かに暮らしていた先人の智慧に学びながら、自然の循環をせき止めない人間本来の生き方を目指す「意識的不便主義」を提唱している。

〈講演会・学習会テーマ例〉
「簡単・楽しい・リメイク遊び」
裂き織り・布ぞうり・草木染
着古しニットや米袋もおしゃれに変身!



No.16 はやし み き
林 美 貴

昭和27年生まれ 熊本市在住
昭和50年 熊本工業大学建築学科助手
平成12年 崇城大学工学部建築学科講師
平成29年 崇城大学工学部建築学科准教授
現在 日本建築学会九州支部構造委員会委員
熊本県耐震判定委員
熊本市行政区画等審議会委員 熊本県収用委員会委員
熊本市公共事業再評価監視委員会委員 熊本市入札監視委員会委員
上天草市入札監視委員会委員長
(一社)日本建築学会会員 (公社)日本コンクリート工学会会員 (公社)地盤工学会
(公社)日本建築積算協会会員 建築コスト管理士
(公社)日本建築積算協会九州支部相談役

大学では、「建築構造力学」や「実務建築学実習・建築積算」「建築基礎構造」「建築構造・材料実験」を担当していた。研究活動においては、建築材料の県産材活用のより高い効率化を目指した実験研究や、環境負荷の小さい材料による地盤改良土壌固化材の開発に関する実験研究を行っている。



〈講演会・学習会テーマ例〉
「自然環境と建築材料の可能性」
「建築と自然環境」
「わたしたちと建築と自然環境」

No.17 いわ した のり こ
岩 下 紀 子

平成元年～平成31年 熊本県高等学校勤務
現在 尚綱大学短期大学部総合生活学科教授
熊本家庭科消費者教育研究会会長

「何を選んでどのように食べるか」等、いつも考えているのですが、その意思決定をどのようにするかで、自分の健康や命だけでなく、社会も大きく変わります。持続可能な社会を形成していくために、私たちはどのような力をつける必要があるか、食生活における具体的な事例を通して考えましょう。



〈講演会・学習会テーマ例〉
「学校現場における消費者教育」
「SDGsと消費者市民社会」
「これからの社会に必要な消費者の力
～私たちの食生活と環境～」

No.18 さ と う あ つ こ
佐 藤 彩 己 子

平成15年～21年 熊本市エコスクール化事業「買い物ゲーム」採択
平成17年 環境省チームマイナス6%事業「エコッキング」採択
平成18年 熊本県パートナーシップ創造事業「エコッキング」採択
平成15年 第12回熊本県「くまもと環境賞」個人部門受賞
平成28年 こども食堂「寺子屋カフェ」主宰
(DV・児童虐待支援、シンママキッズ支援、コロナ災禍困窮者支援)
略歴 環境NPO「緑の生活(くらし)ネットワーク」事務局長
熊本県国土利用計画審議会委員
熊本県地球温暖化防止活動推進員
熊本県生物多様性くまもと戦略検討委員会

ガス・水道・電気代の節約術、ごみ減量の方法・冷蔵庫の管理術、環境保全型せっけん・洗剤・防腐剤などの見分け方実験等、親子や学校で「楽しみながら取り組む消費者教育」。
地域の市民団体、自治体、教職員、社員を対象にした研修会やワークショップ講座。



〈講演会・学習会テーマ例〉
体験学習「買い物ゲーム」「エコッキング」
体験学習「大好評☆家計の節約術」「食育と実験」
「わたしたちのくらしと環境問題(地球温暖化)」

No.19 た きた ま み
田 北 真 美

昭和45年生まれ 八代市千反町在住
現在 日本カイロプラクティック師協会準会員
熊本県地球温暖化防止活動推進員
熊本県育木インストラクター
熊本大学木育推進員上級
ダンボールコンポストアドバイザー

身近にECOを実践できる、生ごみリサイクル。自然活動の中での木育や野外調理。生きていく上で大切な食を通して体を知る。普段の何気ない生活がなぜ環境問題と結びつくのか様々な視点からわかりやすくお話しします。また、ひき石臼を使った体験を行い、昔の道具のすばらしさ、現在のエネルギーの大切さを知ってもらう。



〈講演会・学習会テーマ例〉
「生ごみリサイクル ダンボールコンポスト」
「体からみた環境と食育」
「竹を使った工作」体験
野外炊飯、石臼体験、ダッチオーブンなど

No.20 かん だ 神 田 みゆき

〈講演会・学習会テーマ例〉
「SDGs達成のために私たちにできること」
「地球温暖化について考える」
「ESD・SDGs教育について」

略 歴 中学校教諭（理科）
高等学校講師（化学・地学）
熊本市教育委員会 社会教育主事
環境省 環境カウンセラー・環境教育インストラクター
SDGs各種カードゲーム公認ファシリテーター
熊本県くまもと環境教育賞受賞
現 在 Universe Quest（代表）
NPO法人SDGs Association 熊本（代表理事）
熊本県地球温暖化防止活動推進センター（センター長）
くまもとSDGs推進財団（評議員）

元中学校理科教諭。2017年より対面でおよそ3万人にSDGsを伝える。熊本市教育委員会の社会教育主事を経て、SDGsのキーワードで、枠を超えて様々な立場の方を繋いでいきたいと考え公務員を退職。様々な学校や行政、企業などで講演などを行っている。



No.21 こ ばやし ゆ み こ 小 林 由 美 子

〈講演会・学習会テーマ例〉
「生き物とのコミュニケーションについて（動物、植物）」
「子猫の生態」
「笑顔を呼べる手引き」

現 在 熊本県自然ふれあい指導員
熊本県自然観察研究会会員

グローバルなネットワークを通じて、世界的環境問題について情報交換を実施（原子力問題（仏）、コロナウイルス対策（米）、子猫の命を救う為の手引き書翻訳）。身近な植物観察会を実施。



No.22 やま した けい ぞう 山 下 桂 造

〈講演会・学習会テーマ例〉
「校庭の植物観察」
「山野の植物観察」

現 在 玉名市議会議員
熊本県希少野生動植物検討委員会調査員
熊本記念植物採集会理事
野生生物研究会会員
小岱山自然観察会主催者

平成20年より小岱山で自然観察会を毎月おこなっています。月ごとに変化していく自然を楽しみながら、自然について考えを深めています。何がそこにあるかではなく、なぜそこにそれがあるかを考える面白さを知りました。



No.23 まえ だ てつ や 前 田 哲 弥

〈講演会・学習会テーマ例〉
「身近な植物観察会」
「水辺の植物観察会」

現 在 博物館ネットワークセンター博物館活動嘱託員（植物）
日本植物分類学会会員
自然観察指導員熊本県連絡会会員
すげの会会員

普段は博物館施設で、植物に関する調査・研究、展示、講座、体験学習を担当。身近な植物をとおして、自然を知り、親しむ機会づくりを目指します。



植

(植物プランクトン)

No.24 いちのみや むつ お 宮 睦 雄

昭和50年生まれ 熊本市在住
平成23年 熊本県立大学環境共生学部講師
平成28年 熊本県立大学環境共生学部准教授
令和2年～ 熊本県立大学環境共生学部教授
現 在 日本海洋学会会員
日本プランクトン学会会員
日本藻類学会会員
不知火海・球磨川流域圏学会会員

主に顕微鏡観察による、植物プランクトン(微細藻類)の生態や生活史に関する研究を行っている。有明海、八代海を含む九州周辺の沿岸域、親潮・黒潮などの外洋域、またスイゼンジノリが生育する淡水域で研究を行っている。

〈講演会・学習会テーマ例〉
「植物プランクトンの生態」
「赤潮プランクトンの生活史」
「スイゼンジノリの保全」



植

(阿蘇地域の植物)

No.25 せ い すみ お 瀬 井 純 雄

昭和32年生まれ 阿蘇郡南阿蘇村在住
現 在 南小国町立中原小学校校長退職
熊本県希少野生動植物検討会委員
阿蘇市ASO環境共生基金 運用委員会 委員
認定NPO法人阿蘇花野協会専務理事

阿蘇郡市内の小中学校で教鞭を取るかわら、阿蘇の草原植物、特に大陸系遺存植物の分布や生態を研究。県の希少野生動植物調査、環境省絶滅危惧植物調査では阿蘇地域の植物を担当。

〈講演会・学習会テーマ例〉
「阿蘇の自然」
「阿蘇の草原植物の現状と草原再生」
「身近な植物を観察しよう」



植

(人吉球磨地域の植物)

No.26 おと ます まさ たか 乙 益 正 隆

昭和6年生まれ 人吉市在住
平成3年 人吉市立中原小学校校長退職
現 在 環境省希少野生動植物種保存推進員
植物分類地理学会会員 日本シダの会会員

人吉球磨地方の植物研究の第一人者。アソシケンダ、ナンビイノデなど多くの新種を発見。著書に「球磨の植物民俗誌」、「球磨の草木ばなし」、「熊本植物方言と民俗」、「草花あそび虫あそび」、「球磨・人吉地方植物誌」など。平成24年に「熊本県シダ植物誌」出版。平成5年熊本県環境賞、平成7年野生生物保護功労賞受賞。H14調査学術研究部門環境大臣賞受賞。H15全日本河川功労賞受賞。H22九州地方森林管理局より感謝状。R5林野庁より感謝状。

〈講演会・学習会テーマ例〉
「土木工事における自然環境保全」
「動植物の自然環境の保全」
「身近な植物と自然環境」



動

(動物全般)

No.27 へん み やす ひさ 逸 見 泰 久

昭和33年生まれ 菊陽郡(大津町)在住
平成10年 熊本大学理学部合津臨海実験所講師
現 在 熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 教授
熊本県希少野生動植物検討委員
環境省モニタリングサイト1000委員
上天草市環境審議会会長

専門は、干潟・浅海を中心とした沿岸生態学。研究課題は、「底生動物の生活史および行動生態」で、特に甲殻類や貝類を対象とする。著書「干潟の絶滅危惧動物図鑑」、「豊穰の海・有明海の現状と課題」、「肥後ハマグリ資源管理とブランド化」(共著)

〈講演会・学習会テーマ例〉
「有明海・八代海の生物多様性」
「レッドデータブック」
「水産資源の保全と持続的利用」



No.28 さかもとまりこ
坂本真理子

〈講演会・学習会テーマ例〉
「水田と人と生きもの」
「空飛ぶ哺乳類たち」
「野生動物とプラスチックごみ」

昭和32年生まれ 阿蘇郡西原村在住
現在 九州両生爬虫類研究会 事務局長
熊本県希少野生動植物検討委員
ビオトープ管理士（計画1級、施工1級）
環境カウンセラー（環境省）、博士（理学）

専門は、小型サンショウウオ類の分類・生態。両生類と哺乳類の調査・研究を長年おこなっている。大事にしたいことはそれぞれの地域の生物多様性と特性。今もっとも力を入れているのは小学生や幼児の環境学習。



No.29 さかなしまさひこ
坂梨仁彦

〈講演会・学習会テーマ例〉
「熊本の野鳥」
「里山の自然観察」
「鳥たちの超能力」

昭和31年生まれ 熊本市在住
現在 日本野鳥の会熊本県支部副支部長
日本鳥学会会員

日本野鳥の会熊本県支部の副支部長を勤めるなど、熊本の野鳥保護を縁の下から支えている。県内各地での野鳥観察会を指導するなど経験も豊富。



No.30 まつもとたつや
松本達也

〈講演会・学習会テーマ例〉
「貝類から見た動物多様性」
「陸貝から見た環境指標（自然度）」
「熊本県内における外来種（貝類）の現状と生態系への影響」

昭和31年生まれ 熊本市在住
昭和54年～56年 深海貝類の調査研究（東海大学）
平成15年 オフィスまいまい（貝類研究所）を設立
現在 日本貝類学会会員
熊本県希少野生動植物検討委員会調査員

貝類の調査研究を行っており、熊本県博物館ネットワークセンターの収蔵標本の同定、登録を行っている。
普及啓発活動も行っており、熊本県博物館ネットワークセンターの「貝のふしぎ展」の企画監修や、観察会の講師を務めている。



No.31 たかまつやすくに
高松安国

〈講演会・学習会テーマ例〉
「川の生き物たち」
「川の環境指標動物」

昭和30年生まれ 熊本市在住
現在 熊本生物研究所 研究員

熊本県内河川における水生生物の研究。河川における生物相の研究。



動物

(陸・淡水産貝類)

No.32 にし の ひろし
西 野 宏〈講演会・学習会テーマ例〉
「熊本の陸・淡水産貝類」
「小動物のケミカルシグナル」
「海洋生物に潜む化学物質(毒成分)」など昭和30年生まれ 熊本市在住
現在 熊本大学大学院先端科学研究部基礎科学部門化学分野特任教授
日本化学会会員、有機合成化学協会会員
熊本県希少野生動植物検討委員会委員
日本貝類学会会員、九州貝類談話会会員

専門は有機化学で、天然に広く存在する複素環化合物骨格の合成。生物活性物質である「薬」や「毒」に興味がある。また、陸産貝類や淡水産貝類の分布や生態調査も行っている。主な著書(共著)に「大学生 これから学ぶ化学」(2023)、「レッドデータブックくまもと2019」など。



動物

(海洋生物)

No.33 つつみ ひろ あき
堤 裕 昭〈講演会・学習会テーマ例〉
「有明海生態系の異変とその原因」
「干潟生態系のしくみ」
「沿岸漁業の問題点と対策」
「マイクロバブルによる曝気技術の水産養殖への利用」
「酸素マイクロバブル利用による農産物生産性の向上」昭和31年生まれ 熊本市在住
昭和62年 熊本県立女子大学助教授
平成4年 熊本県立大学生活科学部助教授
平成11年 熊本県立大学環境共生学部教授
平成30年 熊本県立大学副学長
令和4年 熊本県立大学学長

専門は、海洋生態学、沿岸環境学。研究課題は有明海の生態系、アサリの生態と漁業、イトゴカイの生態、水産増養殖環境、有機汚泥浄化、マイクロバブルなど。



動物

(海洋生物)

No.34 もり けい すけ
森 敬 介〈講演会・学習会テーマ例〉
「海の生きもの：有明海、八代海、天草の生物多様性」
「沿岸生態系の保全再生」
「水銀の話：水俣湾の生きものを中心に」昭和32年生まれ 宇土市在住
現在 ひのくにベントス研究所 所長
熊本県希少野生動植物検討委員会委員

ベントス(底生無脊椎動物)全般を対象として日本各地の沿岸域の様々な生態系(岩礁、転石、干潟、塩性湿地、浅海域)で生物群集の生態学的研究を行っている。熊本県のレッドデータブック(海洋動物)作成を担当すると共に、熊本県における希少生物の保護や沿岸環境保全活動を行っている。主要著書に「干潟ベントスフィールド図鑑」、「フジツボ類の最新学」、「レッドデータブックくまもとシリーズ」などがある。



動物

(生態・水産・保全)

No.35 やま だ かつ まさ
山 田 勝 雅〈講演会・学習会テーマ例〉
「藻場・干潟・海草場の生物多様性：保全と水産」
「生物多様性をなぜ守らないといけないのか？」
「沿岸生物の観察会」合志市在住
平成22年 千葉県水産総合研究センター 研究員
平成23年 (国研) 国立環境研究所 特別研究員
平成25年 (国研) 水産研究・教育機構 西海区水産研究所 研究員
現在 熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 准助教

専門：沿岸生態学、多様性科学、水産科学。干潟・藻場・海草場や河口などの人間にとってなじみ深い沿岸域に生息する生物種(魚介類や甲殻類)や生態系に関する研究を行っている。自然・環境から享受できる水産物などの恩恵と、人間社会とのより良い共生関係に新しい視点をもたらすことを目指している。



No.36 てら さき あき のり
寺 崎 昭 典

〈講演会・学習会テーマ例〉
「昆虫教室」
「生物多様性」
「昆虫の不思議」

昭和23年生まれ 熊本市在住
現在 合同会社 フィールドリサーチ代表
河川・水辺の国勢調査アドバイザー
熊本県希少野生動植物検討委員（昆虫班代表）
流水型ダム環境保全対策検討委員（川辺川）

専門は蝶類・トンボ類の生態・分類。熊本県のレッドデータブック（昆虫）に関する調査・作成。

No.37 すず き とし お
鈴 木 敏 雄

〈講演会・学習会テーマ例〉
「きのこ観察会」
「きのこの形態と生態」
「きのこの役割と働き」
「食用・薬用・毒きのこ」

昭和22年生まれ 合志市在住
現在 熊本きのこ会 顧問

きのこ好きの集まり、熊本きのこ会の仲間と、熊本県内を中心に、きのこを調べている。不思議な形をしたもの、美しい色を持ったもの、いい匂いがするもの、飛び上るほど辛いものなど様々であり、今日はどんなきのこに出会えるのだろうかと心躍らせて森や林へ出かけている。

No.38 こ ばやし おさむ
小 林 修

〈講演会・学習会テーマ例〉
「校庭内のビオトープ構築」
「感性を身につける手法」
「県内の生きものの生態調査とその対策」

昭和22年生まれ 合志市在住
平成5年 くまもと環境賞受賞（個人）
平成7年 熊本県河川愛護功労賞受賞（団体）
平成11年 地域環境保全功労者受賞（環境庁長官表彰）
現在 国土交通省河川アドバイザー
環境省環境カウンセラー
熊本県自然観察研究会代表
熊本県自然ふれあい指導員
環境教育アドバイザー
NHK総合ラジオレポーター
熊本県はたる研究会会長（生態・分壊）
熊本市乳幼児パパ・ママ教室講師 他

環境調査や自然観察、講演会の講師として県内各地で活躍している。環境教育アドバイザーとして、学校からの依頼を受け、小中学生への環境教育を行っている。

No.39 お だ ふみ ひろ
小 田 文 弘

〈講演会・学習会テーマ例〉
「宇土半島の自然と生物」
「生物と自然環境」
「野外で生物を観察しよう」など

昭和30年生まれ 宇土市在住
平成2年 NHK学園「自然観察講座」講師
平成3年 YMCA学院環境教育学科担当
現在 元自然観察指導員熊本県連絡会会長

NHK「くまもと博物誌」KKT「熊本の自然点検」などに出演。山から川、海までの生態系の保全を訴えて、環境教育指導、自然観察会など幅広く自然保護教育活動を行っている。グリーンアドバイザー。



なか た ゆう いち
No.40 中 田 裕 一

〈講演会・学習会テーマ例〉
「里山の自然観察」
「川の水環境を調べよう」

昭和38年生まれ 八代郡氷川町在住
現在 宇城市立豊福小学校教諭
自然観察指導員熊本県連絡会副会長
森林インストラクター（全国、熊本県）

身近な森林の植物観察や河川の水生生物調査、体験林業の指導員として活動している。特に、子どもたちの環境教育に力を入れている。（緑の少年団、子ども会活動）



ふじ よし ゆう じ
No.41 藤 吉 勇 治

〈講演会・学習会テーマ例〉
「里山の自然」

昭和29年生まれ 上益城郡山都町在住
現在 矢部郷自然観察会会長
熊本県自然保護関係団体協議会会長

地域の身近な自然をもっと良く知ることが目的に矢部郷自然観察会を発足させ、特に子どもたちの自然観察や環境教育に力を入れている。



き べ なお み
No.42 木 部 直 美

〈講演会・学習会テーマ例〉
「阿蘇の草原で見られる植物や動物について」
「草原と人々の営みとの関係について」
「子どもたちの草原環境学習の実践例や進め方について」

昭和43年生まれ 阿蘇市在住
平成20年 アメリカのエバーグレーズ国立公園でインターン
平成21年～25年 環境省アクティブレンジャーとして阿蘇で勤務
平成25年～27年 （一財）自然公園財団阿蘇支部「自然ふれあい担当」
現在 （公財）阿蘇グリーンストック

阿蘇の草原を未来に引き継いでいくため、地域の子どもたちや来訪者を対象に草原について伝える活動を展開中。阿蘇の草原を紹介する出前講座や草原での自然観察会を行っている。



いち はら けい きち
No.43 市 原 啓 吉

〈講演会・学習会テーマ例〉
「阿蘇の草原について学ぼう」
「体験野焼きを学ぼう」
「阿蘇の草原キッズになろう（春編／秋編）」

昭和25年生まれ 阿蘇市在住
昭和45年 派遣農業研修生として渡米
昭和47年 帰国後農業に従事
平成12年～ 阿蘇市一の宮町町古閑牧野組合組合長
平成21年～ 阿蘇市生涯学習講座講師
現在に至る

平成12年より地元小中学校、高校等の草原学習や体験の場として取り組み、全国各地より訪れる小、中、高校生の修学旅行生の希望に応じ、草原学習や作業体験、牛馬の触れ合い体験や自然観察に取り組む。平成21年からは「草原を歩いて阿蘇の宝を見つけよう」講座の講師として勤務。



No.44 いの うえ ま き
井 上 真 希

昭和55年生まれ 阿蘇郡高森町在住
平成17年～29年 阿蘇くじゅう国立公園南阿蘇ビジターセンター
自然ふれあい担当
現在 一般社団法人高森観光推進機構事務局長
熊本県自然ふれあい指導員
自然観察指導員熊本県連絡会会員
日本野鳥の会熊本県支部会員

鹿児島出身、2児の母。阿蘇で暮らす人の営みが育む生物多様性をテーマに、オオルリシジミ観察や草こづみ作りの草原環境学習に取り組む。庭先などの身近な生きものから絶滅危惧種まで、あらゆる生きものの命のつながりを大切に、子どもたちと地域の宝さがしを楽しんでいる。

〈講演会・学習会テーマ例〉
「オオルリシジミ～草原の小さな花からもの～」
「阿蘇の草原ものしり博士になろう」
「わくわくいっぱい！阿蘇の生物多様性」



No.45 こう やま まさ お
幸 山 昌 生

昭和35年生まれ 八代市在住
現在 九州森のようちえんのつどい代表
森林インストラクター
ネイチャーゲームインストラクター
シェアリングネイチャーウェルネスガイド

幼児の豊かな感性を育む「森のようちえん」、子どもから大人まで誰もが五感を使って自然とふれあい、わかちあう「ネイチャーゲーム」。このような活動を通して自然と人とのつながりを指導している。

〈講演会・学習会テーマ例〉
「自然とふれあう子育て～幼少期の自然体験～」
「野外保育指導者養成講座」
「日本とドイツの森のようちえん」



No.46 ふく もと じゅ た ろう
福 本 寿 太 郎

昭和29年生まれ 球磨郡あさぎり町在住
現在 熊本県シェアリングネイチャー協会理事長
熊本県森林インストラクター
森林セラピスト・ガイド
熊本県自然ふれあい指導員

自然とふれあう楽しさを感じ、自然から学ぶ喜びを知り、子供から高齢者まで、「シェアリングネイチャー」のアクティビティを通じて、心豊かな社会作りに貢献している。
草本、動物、鳥、虫、水、星、自然の循環するフローの中で、自然の素晴らしさをわかちあう活動を指導している。

〈講演会・学習会テーマ例〉
「シェアリングネイチャー活動」
「森林の働き」
「森林セラピー活動」



No.47 さか い いち ろう
坂 井 一 郎

現在 さかもと八竜天文台 台長

四季の星空を見上げる楽しみを伝えるとともに、気象予報士としての経験をもとに昼間の空の楽しさなども伝えていければと思います。

〈講演会・学習会テーマ例〉
「夜空を見上げてみよう」
「四季の夜空を楽しもう」
「雲を眺めてみよう」



No.48 権 藤 貴 士

昭和60年生まれ 上天草市在住
令和4年 ミューイ天文台 台長就任
現 在 ミューイ天文台 台長

一般の方々に天文へ興味を持っていただけるよう、ていねいに分かりやすく解説します。一緒に本物の星空の魅力を体感してみましょう！

〈講演会・学習会テーマ例〉
「星座を見つけよう！」
「望遠鏡工作」
「流星群のお話」



No.49 艶 島 敬 昭

昭和24年生まれ 熊本市南区城南町在住
昭和57年 熊本県民天文台設立に参画
現 在 熊本県民天文台 台長

アマチュア天文愛好家団体が運営するユニークな天文台で、楽しい天体観測を通して宇宙の謎に迫る天文学の最前線を市民向けにやさしく解説している。
現在は、「電子紙芝居」で星座解説番組や体験学習番組を作成したり、光害(ひかりがい)をなくす活動などに力を注いでいる。

〈講演会・学習会テーマ例〉
「星の観察を楽しもう！」
「デジカメ写真で天文学」
「星空・宇宙・光害」



No.50 橋 本 建 司

昭和38年生まれ 八代市在住
元さかもと八竜天文台 館長

星の世界を「やさしく」「わかりやすく」「丁寧に」をモットーに活動。出張授業や観測会のお手伝いをいたします。

〈講演会・学習会テーマ例〉
「四季の星空について」
「四季の天体観察」



No.51 稲 葉 よう 一

昭和42年生まれ 八代市在住
平成元年 ゲームメーカーで企画職
平成10年 中学校講師
平成21年 県埋蔵文化財調査員
平成29年～令和5年 さかもと八竜天文台 台長

県内唯一の、空気で膨らませる持ち運び可能なエアドームを使って、全天投影プロジェクターと光学式プラネタリウム機で季節や天候を気にすること無く星空を楽しむことができます。

野外での光学機器を使った天体観測もわかりやすく解説します。

〈講演会・学習会テーマ例〉
「移動式プラネタリウムによる星と星座のお話」
「光学機器や天体望遠鏡を用いた星のお話」
「光学機器や望遠鏡の扱い方」

